放課後児童支援員認定資格研修テキストを読んで

１．はじめに

今回は、「放課後児童支援員認定資格研修テキスト」で私が学んだ内容を述べます。

２．私が学んだ内容

学童保育の意義は、放課後生活の安心の居場所、成長、発達を保証し、こどもの放課後生活を充実させ、こどもの幸せの実現を図ることです。こどもにとっての最善の利益とは、そのもてる可能性を十分に発揮させ、豊かに成長・発達ができるような環境が保証されることです。こどもの健全育成で特に注意すべきことは、「健全育成」の中身を取り違えないことです。「健全育成」とは「健康に発達」できる環境を保障する事であり、外部から与えられた「健全」の内容に沿ってこどもを管理したり、「健全なこども像」に合致させることではありません。育つ主体はあくまでこども自身であり、こどもたち自身が育ちあえる「良い環境を整えること」が学童保育の役割です。毎日の生活と遊びのなかに生まれるトラブルをこどもたち自身が解決していくプロセスを大切にすることこそが「健全育成」の中身であり、つまづきや失敗から立ち直り、やり直しを保障することが、こどもの「健康な発達」にとって不可欠な視点です。

放課後児童クラブの支援員は、何よりもまずは、あるがままのこどもを受け止め、こどもとの信頼関係を築くことが肝要です。ダメな部分も含めて受け入れてもらえていること、その一方で成長発達を応援してくれていることを感じたこどもたちは安心して過ごすことができます。そして、安心感があるからこそ、こどもたちは動き出すことができるのです。特に、自信を持てずに一歩を踏み出せないこどもにとって、そんな自分を受け入れて支えてくれる支援員の存在は大きく、支援員の支えが安心感を生み、こどもたちは失敗を恐れつつも友達に向き合ったり、苦手な事に挑戦できるようになります。

学童保育の主な役割は、こどもの「問題」を抑えることではありません。安心できて楽しい生活の場をつくり、そのことを通じてこどもの成長、発達を保障していくことが、学童保育の主な役割です。「問題」ばかりに目を奪われないことが大切です。その子が楽しめる活動は何か、その子が好きなことは何か、考えていくことが求められます。

困難を抱えるこどもとの関わりの中では、こどもの気持ちに言葉を添えることが大切になります。こどもの気持ちを支援員がくみ取り、「～と思ったんだね」「～したかったんだね」「～が嫌だったんだね」というように、こどもの気持ちを言葉にして本人に返していくということです。自分の気持ちを言葉にしてくれる大人がいることで、自分の気持ちを言葉にしてもらえるという安心感をこどもは持つことができます。こどもの気持ちに言葉を添えることは、こどもと支援員との安心できる関係づくりにもつながります。

３．おわりに

わたしたち放課後児童支援員は、こどもたちを無条件に受け入れ、こどもたちが安心して放課後の時間を過ごせるよう、こどもたちを支援していくことが大切だと思っています。

KM テクノソリューションズ代表　南側晃一